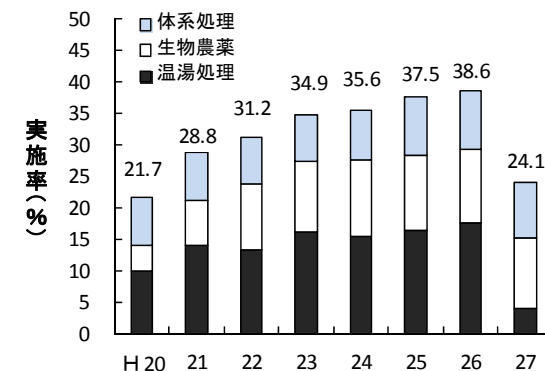


【1. 概要】

- ・水稲種子消毒において、温湯処理や生物農薬、食酢を活用し、環境にやさしい防除を実施。平成27年度は病害虫発生リスク低減のため、採取ほ場、同周辺で使用自粛
- ・県内での導入率は、H27年度 24.1%(9,264ha)、H26年度 38.6%(15,324ha)
- ・県全体での育苗研修会(3月)や各JA単位での講習会を開催

表1. 温湯及び生物農薬等による種子消毒実施状況



【2. 実践内容】

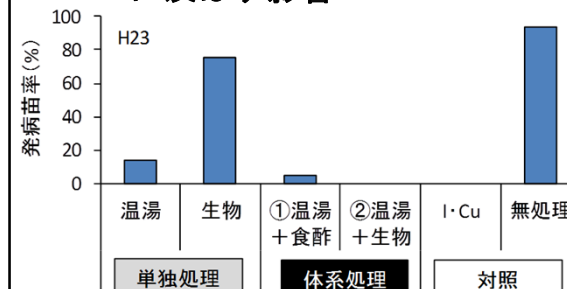
(1) 取り組みの背景、経緯



図1. 温湯種子処理の様子

- ・平成15年頃から環境問題への関心の高まりを受け、温湯処理や生物農薬を用いた「環境にやさしい」種子消毒を普及している(図1、表1、2)
- ・一方で、この前提となる健全種籾生産を強く推進している(IPMの実現)

表2. 各種消毒法がばか苗病の発生に及ぼす影響



(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・効果的な処理の組合せや留意点を県防除指針等に掲載するとともに、地域での研修会を通じ、行政、普及、関係機関が一体となって誘導。随時、新しい情報を提供した
- ・ばか苗病の発生が認められた事から、採種ほ場周辺では使用を制限するなど経済的影響を考慮しつつ、状況に応じ化学防除を併用した(図2)

IPMに基づいた防除方法の選択が必須(県内で実践中)

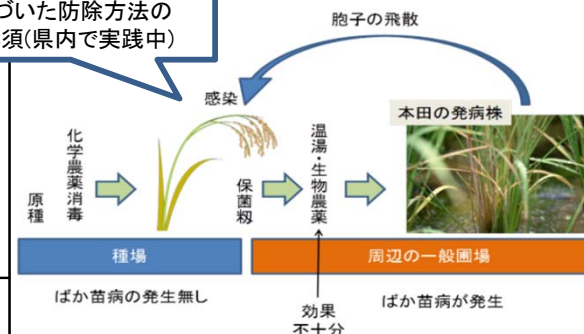


図2. 周辺からの胞子飛び込みによるばか苗病慢性化模式図

【3. 得られた経験、課題に対する対応・解決策】

- ・「環境にやさしい」種子消毒の普及により、化学農薬による廃液処理問題が減少した
- ・他の病害虫も含めた、地域レベルのマネジメントの重要性を確認した
- ・環境にやさしい農業推進のためには、健全な種子の供給が前提にある

【問い合わせ先】

農林水産総合技術センター農業研究所病理昆虫課
電話：076-429-5249